

交付運用報告書 2021年8月期（2020年9月1日～2021年8月31日）

i シェアーズ MSCI ポーランド ETF
iShares MSCI Poland ETF

米ドル建／オープンエンド契約型外国投資信託
米国デラウェア籍法定トラスト

受益者のみなさまへ

毎々、格別のご愛顧にあずかり厚くお礼申し上げます。
さて、i シェアーズ MSCI ポーランド ETF（以下「ファンド」といいます。）の受益証券は、このたび、2021年8月期の決算を行いました。ファンドの投資目的は、ポーランドの株式により構成される幅広いベースの指数に連動する運用成果を追求することです。当期につきましてもそれに沿った運用を行いました。ここに、運用状況をご報告申し上げます。
今後とも一層のお引立てを賜りますよう、お願い申し上げます。

2021年8月末日

1口当たり純資産価格（基準価格）	23.10米ドル
純資産総額	284,146,235米ドル
2021年8月期（2020年9月1日～2021年8月31日）	
トータルリターン	27.65%
1口当たり分配金額	0.159970米ドル

（注）1口当たり分配金額は、税引前の分配金額を記載しています。以下同じです。

ファンドの運用報告書（全体版）は受益者のご請求により交付されます。交付をご請求される方は、取次証券会社までお問い合わせください。

<その他記載事項>

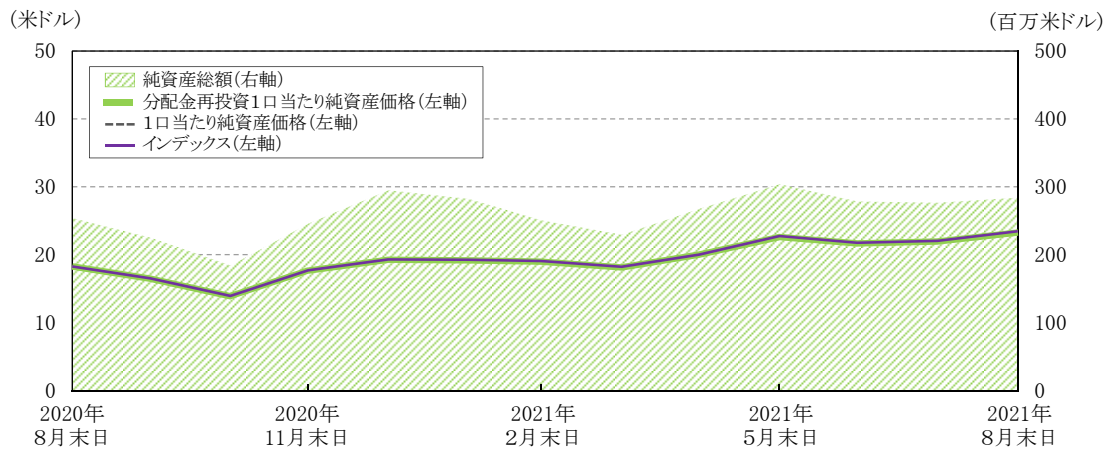
交付運用報告書および運用報告書（全体版）はブラックロック・ジャパン株式会社のウェブサイト（<https://www.blackrock.com/jp/>）の投資信託情報ページにて電磁的方法により提供しております。

トラスト：

i シェアーズ・トラスト

《運用経過》

当期の1口当たり純資産価格等の推移について



2020年8月末日現在の1口当たり純資産価格：18.24米ドル

2021年8月末日現在の1口当たり純資産価格：23.10米ドル

(1口当たり分配金額：0.159970米ドル)

トータルリターン：27.65%

(注1) 上記のグラフは、Aladdin®システムから抽出したデータに基づき作成しています。

(注2) 分配金再投資1口当たり純資産価格は、税引前の分配金を分配時にファンドへ再投資したとみなして算出したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。以下同じです。

(注3) ファンドのインデックスは、MSCI ポーランド IMI 25/50インデックス (MSCI Poland IMI 25/50 Index) (以下「インデックス」といいます。) です。

(注4) インデックスおよび分配金再投資1口当たり純資産価格は、2020年8月期末の1口当たり純資産価格を起点として計算しています。

(注5) 分配金再投資1口当たり純資産価格は、各投資者の購入状況などにより課税条件が異なるため、分配金に対する税金を考慮していません。そのため、最終的な税引後の結果を示すものではありません。

1 口当たり純資産価格の主な変動要因、投資環境およびポートフォリオについて

グローバル市場概観

2021年8月31日に終了した年度（以下「当年度」といいます。）のグローバル株式市場は、大きく上昇しました。先進国および新興国市場の両方を含む一般的なグローバル株式インデックスであるMSCI ACWIは当年度において米ドル建てで28.64%のリターンとなりました。株価は、コロナウイルスの感染拡大による当初の影響から回復を続け、当年度末までに史上最高値に近づきました。経済の再開は世界経済の大幅な拡大につながり、COVID-19ワクチンの開発および普及により投資家の楽観的な見方が高まりました。それにもかかわらず、ワクチン接種率は国によってかなり異なり、より伝染性の高いデルタ変異株の蔓延により、当年度末にかけて感染者数が増加し、再び規制が敷かれました。また、サプライチェーンの制約や個人消費の高まりを背景に、世界の多くの地域でインフレ率が上昇しました。

米国の株式市場は、財政・金融刺激策と現在進行中の集団ワクチン接種プログラムに支えられ、大きく上昇しました。当年度において米国議会で2つの財政刺激法案が可決されており、個人への直接現金給付、税額控除、州・地方政府への援助、ならびに住宅所有者および賃貸業者への支援という形で大きな救済策となりました。個人所得は財政刺激策による現金給付を受けて大幅に増加し、消費者支出は回復し、パンデミック前の水準を上回りました。個人消費の増加とパンデミック関連の規制の緩和により、2020年上半期のパンデミックによる景気後退から活動が回復基調となったことから、米国経済は2020年第3四半期に大幅に回復しており、その後も成長を続けています。当年度の残りの期間においても活発に成長を続け、最終的に2021年第2四半期にはパンデミック前の生産レベルを上回りました。米国連邦準備銀行（以下「Fed」といいます。）の行動も景気回復に大きな役割を果たしました。金融政策は引き続き緩和的であり、融資を促進し経済活動を活発化させるため、短期金利はゼロ付近に維持されました。さらにFedは、米国債およびモーゲージ担保証券を対象とした無制限のオープンエンド型債券購入プログラムを継続することによって、債券市場の安定化を図りました。

欧州の株式は、他の主要国に比べて回復が遅れたものの、力強い利益を記録しました。欧州中央銀行（以下「ECB」といいます。）は超低金利を維持し、大規模な債券購入プログラムを継続する金融刺激策を実施しました。2020年第3四半期には、規制が緩和され、またユーロ圏諸国が7,500億ユーロ規模の景気刺激策を実施したことで反騰し、再び成長に転じました。しかしながら2020年10月に再度コロナウイルスの感染拡大の波が来たことで再び規制が敷かれ、辛うじて回復基調だった株価は低調となりました。その結果、世界の多くの地域が再び成長に転じつつある中で、2020年第4四半期および2021年第1四半期のユーロ圏の経済はわずかに縮小しました。多くの欧州諸国では最初のワクチン普及が遅れましたが、当年度終わりにワクチン接種のペースが加速し、2021年第2四半期に経済成長に転じました。

アジア・太平洋地域の株式も、経済活動が急速に回復する中、堅調に上昇しました。アジア・太平洋地域の多くの国が主要な貿易相手国である中国に依存しているため、中国の継続的な経済成長は地域経済の回復を

支えました。日本とオーストラリアの株式は、世界貿易が復活する中、輸出が急増したことによる恩恵を受けました。新興市場の株式は、景気回復と多くのコモディティの価格上昇に後押しされて、全体的に上昇しました。しかし、増加する政府による規制の動きに対する投資家の懸念は、当年度終わりに中国株を押し下げました。アジアの一部でのワクチン普及が比較的遅いことも、特にデルタ変異株の拡大に伴う懸念材料となりました。

1. 運用の経過

i シェアーズ MSCI ポーランド ETF

2021年8月31日現在のファンド概要

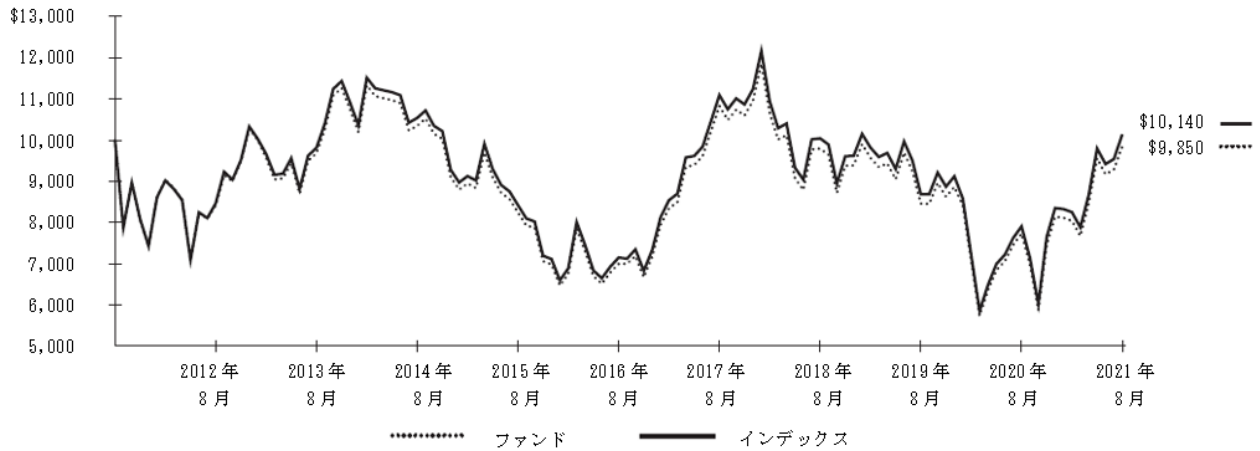
投資目的

ファンドは、インデックスに代表される、ポーランド株式で構成される幅広いベースのインデックスと同等の投資成果をあげることを目指しています。ファンドは、全体としてインデックスと同様の投資特性を有する、インデックスに含まれる代表的な構成銘柄を組入れています。代表的な構成銘柄の組入れにより、ファンドはインデックスに含まれる銘柄のすべてを保有する場合もあれば、しない場合もあります。

パフォーマンス

	年間平均トータルリターン			累積トータルリターン		
	1年	5年	10年	1年	5年	10年
ファンドのNAV	27.44% ^(a)	7.09%	(0.15)%	27.44% ^(a)	40.84%	(1.50)%
ファンドの市場	28.35%	7.14%	(0.10)%	28.35%	41.19%	(0.99)%
インデックス	28.27%	7.25%	0.14%	28.27%	41.87%	1.40%

10,000 米ドル投資の純資産価額の推移



2013年2月11日までのインデックスのパフォーマンスは、MSCI ポーランド・インベスタブル・マーケット・インデックスのパフォーマンスを反映しています。2013年2月12日からのインデックスのパフォーマンスは、MSCI ポーランドIMI 25/50 インデックスのパフォーマンスを反映しています。

^(a) 表に示されている1年間のNAV トータルリターンは、財務ハイライトに開示された同期間のリターンとは異なります。財務ハイライトのトータルリターンは、同様の方法で算定されるものの、財務報告目的上、米国において一般に公正妥当と認められる会計原則に準拠し特定の調整が実施されているために異なります。

過去のパフォーマンスは、将来のパフォーマンスを保証するものではありません。運用パフォーマンスの結果は、ファンドの分配時あるいはファンド受益証券の償還時または売却時に受益証券保有者が支払う可能性のある税金の控除を反映していません。

費用例

実績値			5%の仮説リターンに基づく仮定値			
口座の 期首価額	口座の 期末価額	当期間の 費用	口座の 期首価額	口座の 期末価額	当期間の 費用	費用比率 (年率)
2021年3月1日	2021年8月31日	支払額 ^(a)	2021年3月1日	2021年8月31日	支払額 ^(a)	(年率)
1,000.00 米ドル	1,225.50 米ドル	3.59 米ドル	1,000.00 米ドル	1,022.00 米ドル	3.26 米ドル	0.64%

^(a) 費用は、当期間中の口座の平均価額に、ファンドの年率換算された費用比率（上記の表に開示される通り）および当期間中の日数（184日）を乗じ、当年度の日数（365日）で除すことによって算出されています。売買委託手数料および金融仲介業者へのその他の手数料など、上記の表や例には反映されないその他の手数料が支払われる場合があります。

ポートフォリオ管理の説明

ポーランド株式は、コロナウイルスのパンデミックによる比較的緩やかな景気後退から回復し、当年度において堅調に上昇しました。パンデミックによる経済的混乱に対処するため、景気刺激のための力強い政府支出が実行されました。インフレ率の上昇が懸念される中、ポーランド国立銀行は、金利を低く抑え、国債を購入し、外貨準備金の一部を売却してポーランド・ズロチ安を誘導し、金融緩和政策を維持しました。こうした中、失業率は低水準で推移し、通貨安が輸出に寄与しました。パンデミック関連の規制が緩和される中、家計消費の回復に牽引され、経済は力強く成長しました。また、世界的な供給網に混乱が生じたにもかかわらず、資本財生産も回復しました。

金融セクターは、銀行に牽引され、インデックスのリターンに最も貢献しました。ポーランドの銀行は、借入需要の減少とポーランド国立銀行の低金利維持によって引き続き苦しい状況にありましたが、それにもかかわらず、パンデミックにおける収益の急激な減少から回復しました。営業費用の削減、手数料の増加、信用損失引当金の減少は、銀行の収益性を高めました。保険契約を中心とした新たな事業分野への多角化により、ある大手銀行は過去最高益を達成しました。

一般消費財セクターも、インデックスのリターンに大きく貢献しました。2021年4月にパンデミック関連の規制が緩和された後、小売販売が急速に回復し、繊維・アパレル業界が上昇を牽引しました。競合する外国企業がパンデミックの間に店舗を閉鎖したため、国内企業は、競争の減少による恩恵を受けました。さらに、買い物客が電子商取引を通じた購入を増加させたため、強力なデジタルインフラを持つ企業が上昇しました。

マイナス面としては、通信サービス・セクターがインデックスのパフォーマンスを大幅に引き下げました。娯楽産業は、ビデオゲーム会社が重要な技術的問題を抱えた新作タイトルを発売したことで売上が低迷し複数の訴訟が提起され、これらが株価の重荷となって下落要因となりました。

ポートフォリオ情報

セクター別内訳

セクター	総投資比率 ^(a)
金融	36.0%
一般消費財	14.9
エネルギー	12.4
通信サービス	11.1
素材	9.8
公益事業	5.8
生活必需品	4.6
情報技術	2.5
ヘルスケア	1.5
資本財	1.4

組入上位 10 銘柄

証券	総投資比率 ^(a)
Powszechna Kasa Oszczednosci Bank Polski SA	11.0%
KGHM Polska Miedz SA	7.3
Allegro. eu SA	7.3
Powszechny Zaklad Ubezpieczen SA	7.1
Polski Koncern Naftowy ORLEN SA	6.3
Bank Polska Kasa Opieki SA	5.5
LPP SA	4.7
Dino Polska SA	4.1
Santander Bank Polska SA	4.0
Cyfrowy Polsat SA	3.9

^(a) マネー・マーケット・ファンドを除く。

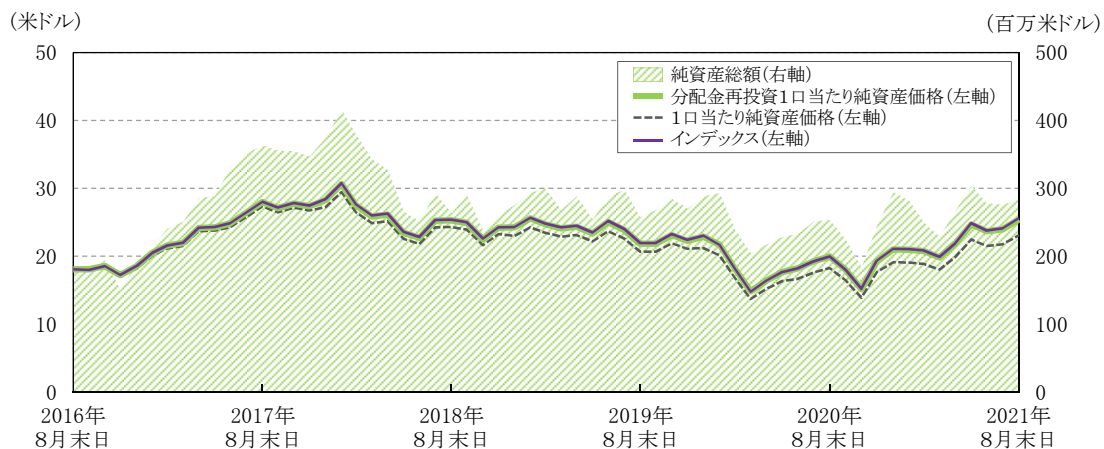
費用の明細

項目	項目の概要		
	投資顧問報酬	平均日次純資産総額 ^(注1)	
投資顧問報酬	0.7400%	20億米ドルまで	ファンドに提供される 投資顧問サービスの対 価
	0.6900%	20億米ドル超、 40億米ドル以下	
	0.6400%	40億米ドル超、 80億米ドル以下	
	0.5700%	80億米ドル超、 160億米ドル以下	
	0.5100%	160億米ドル超、 240億米ドル以下	
	0.4800%	240億米ドル超、 320億米ドル以下	
	0.4500%	320億米ドル超、 400億米ドル以下 ^(注2)	
	0.4275%	400億米ドル超 ^(注2)	
	その他の費用	純資産総額の0.03%	

(注1) 平均日次純資産総額とは、ファンドの属する一定のファンドグループの純資産総額の日々平均残高の合計額を指し、投資顧問会社は上記の料率に従って計算される投資顧問報酬の合計額のうち、ファンドに係る割当額を受領します。

(注2) 2021年7月14日より、区分が修正されました。

最近5年間の1口当たり純資産価格等の推移について

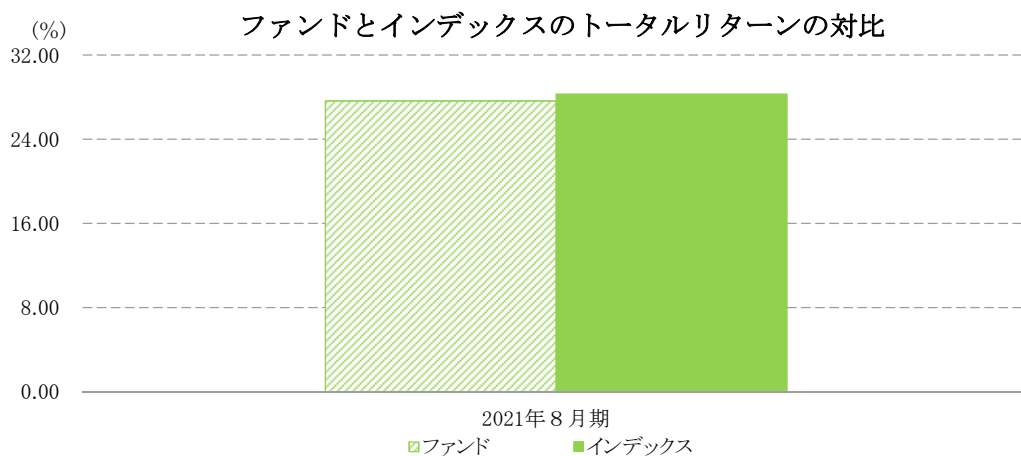


	2016年 8月末日	2017年 8月末日	2018年 8月末日	2019年 8月末日	2020年 8月末日	2021年 8月末日
1口当たり純資産価格 (米ドル)	18.06	27.33	24.31	20.68	18.24	23.10
1口当たり分配金額 (米ドル)	—	0.425292	0.447103	0.353067	0.663622	0.159970
ファンドのトータル リターン (%)	—	54.79	-9.53	-13.64	-8.61	27.65
インデックスのトータル リターン (%)	—	55.20	-9.45	-13.51	-8.99	28.27
純資産総額 (百万米ドル)	180	364	264	261	254	284

(注1) 上記のグラフは、Aladdin®システムから抽出したデータに基づき作成しています。

(注2) インデックスおよび分配金再投資1口当たり純資産価格は、2016年8月期末の1口当たり純資産価格を起点として計算しています。

ベンチマークとの差異について



分配金について

当期（2020年9月1日～2021年8月31日）の1口当たり分配金（税引前）はそれぞれ下表のとおりです。なお、下表の「分配金を含む1口当たり純資産価格の変動額」は、当該分配落日における1口当たり分配金額と比較する目的で、便宜上算出しているものです。

（金額：米ドル）

分配落日	1口当たり純資産価格	1口当たり分配金額 (対1口当たり純資産価格比率 ^(注1))	分配金を含む1口当たり純資産価格の変動額 ^(注2)
2020年12月14日	18.90	0.098701 (0.52%)	2.30
2021年6月10日	22.55	0.061269 (0.27%)	3.71

(注1) 「対1口当たり純資産価格比率」とは、以下の計算式により算出される値であり、ファンドの収益率とは異なる点にご留意ください。

対1口当たり純資産価格比率 (%) = $100 \times a / b$

a = 当該分配落日における1口当たり分配金額

b = 当該分配落日における1口当たり純資産価格 + 当該分配落日における1口当たり分配金額

(注2) 「分配金を含む1口当たり純資産価格の変動額」とは、以下の計算式により算出されます。

分配金を含む1口当たり純資産価格の変動額 = $b - c$

b = 当該分配落日における1口当たり純資産価格 + 当該分配落日における1口当たり分配金額

c = 当該分配落日の直前の分配落日における1口当たり純資産価格

(注3) 2020年12月14日の直前の分配落日（2020年6月15日）における1口当たり純資産価格は、16.70米ドルでした。

《今後の運用方針》

引き続き、インデックスのパフォーマンスと密接に連動した投資成果を提供することを目指し、ファンドの運用を行う予定です。

《お知らせ》

該当事項はありません。

《ファンドの概要》

ファンド形態	米ドル建／オープンエンド契約型外国投資信託 米国デラウェア籍法定トラスト
信託期間	無期限
運用方針	ファンドの投資目的は、ポーランドの株式により構成される幅広いベースの指数に連動する運用成果を追求することです。
主要投資対象	ファンドは通常、その資産の80パーセント以上をインデックスを構成する有価証券、およびこれと実質的に同様の経済的特性を有する証書に投資します。
運用方法	<p>ファンドは、浮動株調整した時価総額加重型の株価指数で、主としてポーランドの証券取引所に上場している持分証券の実績を測定するインデックスに連動する運用成果を追求します。</p> <p>BlackRock Fund Advisorsは、ファンドの投資目的を達成するために、「パッシブ」またはインデクシング・アプローチを使用します。</p> <p>BlackRock Fund Advisorsは、ファンドの運用につき代表サンプリング戦略を使用します。代表サンプリングとは、全体としてインデックスの代表サンプルと類似する投資プロファイルを有する証券の代表サンプルに投資する指数戦略をいいます。</p>
投資制限	<ol style="list-style-type: none"> 1. 投資を集中させること（すなわち、全資産の25パーセント以上を特定の産業または産業グループの株式に投資すること。）。但し、ファンドは、インデックスが特定の産業または産業グループに有価証券を集中させる程度とほぼ同程度に投資を集中させます。かかる制限の目的上、米国政府（その支分機関および系列機関を含みます。）の証券、米国政府証券の担保付き買戻契約および連邦または州政府もしくはその政府当局の証券は、いかなる産業の構成員から発行されたものとして解釈されません。 2. 借入を行うこと。但し、（i）ファンドは、これを行わなければ、時機を失した証券の処分を要する買戻請求に対応するために、臨時または緊急目的（レバレッジ目的を除きます。）で銀行から借入を行うことができ、（ii）ファンドは、その投資方針と合致している限り、買戻契約、逆買戻契約、先送り取引、およびこれらと類似する他の投資戦略および技術を履行することができます。（i）および（ii）の取引を行う場合に限り、当該取引からファンドは総資産（借入額を含みます。）の33%パーセント以上を取得してはならないという制限が課されます。当該金額を超過する借入は、適用法に基づき縮減されます。 3. 優先的受益証券を発行すること。但し、米国1940年投資会社法で認められているか、または、管轄権を有する規制当局が、随時、解釈、修正その他により許可する場合を除きます。 4. 貸付を行うこと。但し、米国1940年投資会社法で認められているか、または、管轄権を有する規制当局が、随時、解釈、修正その他により許可する場合を除きます。 5. 不動産、不動産抵当、商品、商品契約を売買すること。但し、かかる制限はファンドが先物契約および先物契約のオプションを取引すること（ファンドの投資目的および投資方針と合致している限り、為替オプションを含みます。）を禁止するものではありません。 6. 他の者が発行した証券の引受業務に携わること。但し、ポートフォリオ証券の処分により、ファンドが、厳密には、米国1933年証券法における引受人とみなされる場合を除きます。
分配方針	純投資収益からの分配金（もしあれば）は、最低でも毎年宣言され、ファンドから支払われます。証券の実現純収益（もしあれば）は、通常年に一回宣言され、支払われますが、トラストは、特定のファンドに対してより頻繁に分配を行うことができます。ファンドの登録投資会社としての地位を維持するため、または、分配されない収益に所得税もしくは消費税が賦課されることを回避するために必要であるとファンドがその合理的裁量により決定した場合、臨時分配金を宣言する権利を有します。

《ファンドデータ》

組入資産の内容（2021年8月期末現在）

組入上位資産

（注）組入上位銘柄および組入銘柄数は、ファンドのアンニュアル・レポートその他の現地開示書類において開示が行われていないため、記載することができません。組入銘柄の詳細は、運用報告書（全体版）の「IV. 投資有価証券の主な銘柄」を参照ください。

組入資産の資産別配分、国別配分および通貨別配分

（注1）ファンドの組入資産の資産別配分、国別配分および通貨別配分は、ファンドのアンニュアル・レポートその他の現地開示書類において開示が行われていないため記載することができません。

（注2）ファンドの組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書（全体版）に記載されています。

純資産等

2021年8月期末	
1口当たり純資産価格	23.10米ドル
純資産総額	284百万米ドル
発行済口数	12,300,000口

2021年8月期		
販売口数	買戻口数	発行済口数
5,200,000	6,800,000	12,300,000

本報告書に記載の「1口当たり純資産価格の主な変動要因、投資環境およびポートフォリオについて」は、ファンドのアンニュアル・レポートの該当部分の翻訳であり、本報告書と原文（英文）との間に相違がある場合には、原文（英文）の内容に従うこととなります。なお、原文（英文）の記載のうち、ファンドに関係しない部分を省略する場合があります。